

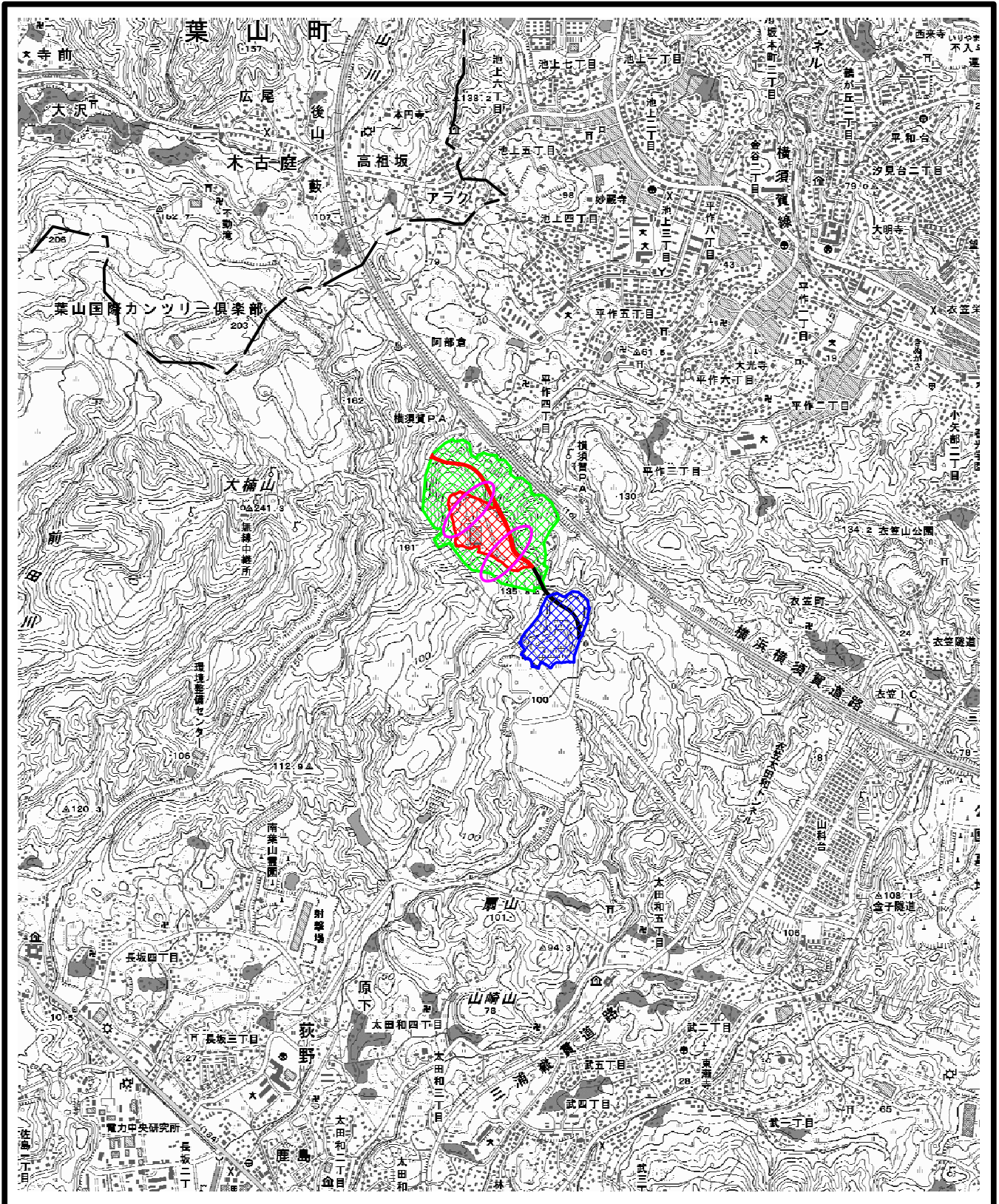
表 4-3-11 調査方法・調査時期等の調査計画等（悪臭：調査）

| 調 査 | | |
|---|-------------|--|
| 調 査 事 項 | 調 査 の 方 法 等 | |
| 悪臭の発生源の状況 | 既存資料調査 | 工場、事業場、廃棄物処理施設、下水道終末処理場、畜舎等の分布状況を地形図等の既存資料により把握し、必要に応じて現地踏査により確認する。 |
| 悪臭物質の濃度等状況 ・ 特定悪臭物質 ^{注)} 22項目 ・ 臭気指数 | 現地調査 | <p><調査地点></p> <ul style="list-style-type: none"> 実施区域敷地境界2地点(図4-3-6参照) 敷地境界風上、風下地点(2地点)：特定悪臭物質(22項目)、臭気指数(調査時の風向を踏まえ、風上、風下となる地点とする。) <p><調査期間、回数></p> <ul style="list-style-type: none"> 悪臭物質の濃度等の状況を適切に把握し得る時期として、夏季に2日各1回とする。 <p><調査方法></p> <ul style="list-style-type: none"> 特定悪臭物質濃度：「特定悪臭物質の測定方法」(昭和47年環告示第9号) 臭気指数：「臭気指数及び臭気排出強度の算定の方法」(平成11年環告示第18号) |
| 地形及び工作物の状況 | 既存資料調査 | 悪臭物質の移流、拡散等に影響を及ぼす地形及び工作物の位置、規模等を地形図等の既存資料により把握し、必要に応じて現地踏査により確認する。 |
| 気象の状況 ・ 風向、風速 ・ 気温、湿度 ・ 日射量、放射収支量 | 既存資料調査 | <p>下記資料等を調査し、最新の1年間の状況を把握するとともに当該年が気象的に異常でなかったかを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 常時監視測定局の1時間値(電子データ) <p><調査地点></p> <ul style="list-style-type: none"> 横須賀市役所測定局他(常時監視測定局、図4-3-2(p.4-44)参照) 横浜地方気象台 |
| | 現地調査 | 大気汚染(表4-3-1(p.4-42))参照 |
| 地形及び工作物の状況 | 既存資料調査 | 悪臭物質の移流、拡散等に影響を及ぼす地形及び工作物の位置、規模等を地形図等の既存資料により把握し、必要に応じて現地踏査により確認する。 |
| 対象事業の計画の状況 | 既存資料調査 | 対象事業(廃棄物処理施設の建設)における事業計画等により、施設稼働時の悪臭を排出する施設等の計画等を把握する。 |

注) 特定悪臭物質：アンモニア、メチルメルカプタン、硫化水素、硫化メチル、二硫化メチル、トリメチルアミン、アセトアルデヒド、プロピオンアルデヒド、ノルマルブチルアルデヒド、イソブチルアルデヒド、ノルマルパレルアルデヒド、イソパレルアルデヒド、イソブタノール、酢酸エチル、メチルイソブチルケトン、トルエン、スチレン、キシレン、プロピオン酸、ノルマル酪酸、ノルマル吉草酸、イソ吉草酸

表 4-3-12 調査方法・調査時期等の調査計画等（悪臭：予測）

| 予 測 | | | | |
|------------|--------------|--------------|--|--|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予 測 事 項 | 予 測 の 手 法 |
| 廃棄物処理施設の建設 | 土地又は工作物の存在及び | 8 廃棄物処理施設の稼働 | <ul style="list-style-type: none"> 特定悪臭物質濃度 臭気指数 | <p><予測時期></p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の稼働が定常の状態となる時期とする。 <p><予測範囲></p> <ul style="list-style-type: none"> 実施区域周辺とし、影響濃度が最大となる地点を含む範囲とする。 <p><予測方法></p> <ul style="list-style-type: none"> 悪臭対策等の事業計画の内容を明らかにするとともに、類似事例等を参照して予測する。 煙突排ガスによる影響は、アンモニア、臭気指数についてブルーム式による拡散シミュレーションにより予測する。 |



凡例

- : 廃棄物処理施設
(宅地の造成を含む)
- : 宅地の造成
(残置森林(最大範囲))
- : 発生土処分場
- : 市町界
- : 新設搬入道路
- : 既設改修道路

: 悪臭調査地点 (臭気指数、特定悪臭物質濃度)
 ※調査時の風向を踏まえ、風上、風下となる地点とする。

注) 宅地の造成(残置森林(最大範囲))には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

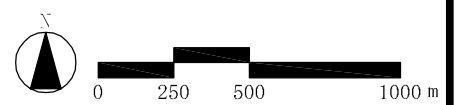


図4-3-6 悪臭調査地点

表 4-3-13 調査方法・調査時期等の調査計画等（廃棄物：調査）

| 調 査 | | | |
|---------|-------------|--------|--|
| 調 査 事 項 | 調 査 の 方 法 等 | | |
| 廃棄物 | 廃棄物の中間処理の状況 | 既存資料調査 | 地域における廃棄物の減量化、安定化及び資源化等中間処理の状況を既存資料により把握し、必要に応じて、聞き取り調査、現地踏査により確認する。 |
| | リサイクルの状況 | 既存資料調査 | 地域における中間処理施設で資源化したものの活用の状況を既存資料により把握し、必要に応じて現地踏査により確認する。 |
| | 最終処分の状況 | 既存資料調査 | 地域における中間処理施設で処理された廃棄物の最終処分の状況を既存資料により把握し、必要に応じて現地踏査により確認する。 |
| 発生土 | 発生土の処分状況 | 既存資料調査 | 地域における発生土の処分施設の状況（施設規模、設備、処理方式・能力、運転計画、分布状況等）を既存資料により把握し、必要に応じて、聞き取り調査、現地踏査により確認する。 |
| | リサイクル等の状況 | 既存資料調査 | 地域における発生土の工事間利用、再資源化等活用の状況を既存資料により把握し、必要に応じて、聞き取り調査、現地踏査により確認する。 |
| 廃棄物 | 対象事業の計画の状況 | 既存資料調査 | 三種の対象事業におけるにおける工事計画、事業計画等により、工事の種類と発生する廃棄物の種類、量、処理・処分の方法、施設供用時の廃棄物を発生する施設等の計画並びに廃棄物等の種類、量及び処理・処分方法の計画等を把握する。 |
| 発生土 | 対象事業の計画の状況 | 既存資料調査 | 三種の対象事業におけるにおける工事計画、事業計画等により、土質状況、土地の形質の変更範囲、掘削量、工事の施工方法の計画等を把握する。 |

表 4-3-14(1/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（廃棄物：予測）

| 予 測 | | | | |
|------------|----|------------|-----------------|--|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予 測 の 手 法 |
| 廃棄物処理施設の建設 | 1 | 建設工事 | ・廃棄物による生活環境への影響 | <予測時期> ・工事の着手から竣工までの期間とする。 <予測地点> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・工事計画、類似事例により、廃棄物等の種類、発生量、リサイクル量、最終処分量等を把握し、廃棄物による生活環境への影響を予測する。 |
| | | | ・発生土による生活環境への影響 | <予測時期> ・工事の着手から竣工までの期間とする。 <予測地点> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・工事計画、類似事例により、発生土の搬出量、リサイクル等の量について予測する。 |
| | 5 | 建設工事 | ・廃棄物による生活環境への影響 | <予測時期> ・工事の着手から竣工までの期間とする。 <予測地点> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・工事計画、類似事例により、廃棄物等の種類、発生量、リサイクル量、最終処分量等を把握し、廃棄物による生活環境への影響を予測する。 |
| | | | ・発生土による生活環境への影響 | <予測時期> ・工事の着手から竣工までの期間とする。 <予測地点> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・工事計画、類似事例により、発生土の搬出量、リサイクル等の量について予測する。 |
| | 8 | 廃棄物処理施設の稼働 | ・廃棄物による生活環境への影響 | <予測時期> ・施設の稼働が定常の状態となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・事業計画、類似事例により、廃棄物等の種類、発生量、再資源化量、最終処分量等を明らかにすることにより予測する。 |
| | | | ・発生土による生活環境への影響 | |

表 4-3-14(2/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（廃棄物：予測）

| | | 予 測 | | |
|-----------|-------|---------|---|--|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予 測 の 手 法 |
| 発生土処分場の建設 | 工事の実施 | 11 建設工事 | <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物による生活環境への影響 | <p><予測時期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の着手から竣工までの期間とする。 <p><予測地点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施区域周辺地域とする。 <p><予測方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事計画、類似事例により、廃棄物等の種類、発生量、リサイクル量、最終処分量等を把握し、廃棄物による生活環境への影響を予測する。 |

表 4-3-14(3/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（廃棄物：予測）

| | | 予 測 | | |
|-------|-------|------------|---|--|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予 測 の 手 法 |
| 宅地の造成 | 工事の実施 | 17 造成工事 | <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物による生活環境への影響 | <p><予測時期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の着手から竣工までの期間とする。 <p><予測地点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施区域周辺地域とする。 <p><予測方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事計画、類似事例により、廃棄物等の種類、発生量、リサイクル量、最終処分量等を把握し、廃棄物による生活環境への影響を予測する。 |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・発生土による生活環境への影響 | <p><予測時期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の着手から竣工までの期間とする。 <p><予測地点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施区域周辺地域とする。 <p><予測方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事計画、類似事例により、発生土の搬出量、リサイクル等の量について予測する。 |
| | | 18 既存施設の解体 | <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物による生活環境への影響 | <p><予測時期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の着手から竣工までの期間とする。 <p><予測地点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施区域周辺地域とする。 <p><予測方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事計画、類似事例により、廃棄物等の種類、発生量、リサイクル量、最終処分量等を把握し、廃棄物による生活環境への影響を予測する。 |

表 4-3-15 調査方法・調査時期等の調査計画等（水象：調査）

| 調 査 | | |
|--|-------------|---|
| 調 査 事 項 | 調 査 の 方 法 等 | |
| 土地利用の状況 ・実施区域の過去及び現在の土地利用の状況 ・実施区域周辺の土地利用の状況 | 既存資料調査 | 土地利用現況図、土地利用履歴図（土地分類基本調査）、地形図、空中写真、市販明細地図等を活用し、地歴を整理する。 |
| 利水等の状況 | 既存資料調査 | 水道用水、工業用水、農業用水等としての利用状況（種類、位置、規模及び稼働状況）、漁業、レクリエーション等の状況を既存資料により把握し、必要に応じて現地踏査により確認する。 |
| 降水量の状況 | 既存資料調査 | 1年間以上にわたる連続した日降水量及び過去10年間の年間降水量の状況を下記資料等を調査し、最大、平均、最小降水量、月降水量から季節変化を、年降水量から経年変化等を把握し、降雨特性について明らかにする。 ・海上自衛隊横須賀地方総監部の観測データ ・地方気象台の観測データ <調査地点> ・海上自衛隊横須賀地方総監部 ・横浜地方気象台等 |
| 水象の状況 ・河川流量 | 既存資料調査 | 下記資料を調査し、水質の希釈に影響を及ぼす河川の流量等を把握する。 ・「かながわ環境白書(最新版)」神奈川県 ・「公共用水域及び地下水の水質測定結果(最新版)」神奈川県 ・「よこすかの環境(最新版)」横須賀市 <調査地点> ・松越川（竹川合流後（神奈川県公共用水域水質測定地点）） ・平作川（夫婦橋（神奈川県公共用水域水質測定地点）） |
| | 現地調査 | <調査地点> ・排水路高圧線下、沢山池流出口付近、長坂埋立地浄化センター放流口下流平作川上流の4地点（水質調査と同一地点：図4-3-3(p. 4-51)参照） <調査期間、回数> ・水質汚濁評価物質濃度の測定と同時（4季各1回、降雨中4回） <調査方法> ・可搬式流速計による。 |
| 対象事業の計画の状況 | 既存資料調査 | 二種の対象事業（発生土処分場の建設、宅地の造成）における工事計画、事業計画等により、土地の形質の変更位置、規模、範囲等、流域の変化の状況、施工方法、排水路の位置、規模、構造等を把握する。 |

表 4-3-16(1/2) 調査方法・調査時期等の調査計画等（水象：予測）

| 予 測 | | | | |
|-----------|-----------------|--------------|---------------|---|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予 測 の 手 法 |
| 発生土処分場の建設 | 土地又は工作物の供用の存在及び | 16 発生土処分場の存在 | ・排水路、河川の流量の変化 | <予測時期> ・建設工事の完了後とする。 <予測範囲> ・予測地域における影響を的確に把握できる地点とする。 <予測方法> ・理論的解析、類似事例、環境保全対策等の工事計画の内容に基づき予測する。 |

表 4-3-16(2/2) 調査方法・調査時期等の調査計画等（水象：予測）

| 予 測 | | | | |
|-------|-----------------|----------|---------------|---|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予 測 の 手 法 |
| 宅地の造成 | 土地又は工作物の供用の存在及び | 21 宅地の形成 | ・排水路、河川の流量の変化 | <予測時期> ・建設工事の完了後とする。 <予測範囲> ・予測地域における影響を的確に把握できる地点とする。 <予測方法> ・理論的解析、類似事例、環境保全対策等の工事計画の内容に基づき予測する。 |

表 4-3-17 調査方法・調査時期等の調査計画等（地象：調査）

| 調 査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|----------------|---|--------|---------|--|------------------|--------|------|---------|---|---|--------|---|---|--------------|---|---|------------|---|---|----------|---|---|------|---|---|------|------|---|---|-------------|---|---|------|---|---|------|------------|---|---|--------|---|---|------|-----------|---|---|----------------|---|---|----------------|---|---|
| 調 査 事 項 | 調 査 の 方 法 等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土地利用の状況 ・実施区域の過去及び現在の土地利用の状況 ・実施区域周辺の土地利用の状況 | 既存資料調査 | 土地利用現況図、土地利用履歴図（土地分類基本調査）、地形図、空中写真、市販明細地図等を活用し、地歴を整理する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 降水量の状況 | 既存資料調査 | <p>1年間以上にわたる連続した日降水量及び過去10年間の年間降水量の状況を下記資料等を調査し、最大、平均、最小降水量、月降水量から季節変化を、年降水量から経年変化等を把握し、降雨特性について明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海上自衛隊横須賀地方総監部の観測データ ・地方気象台の観測データ <p><調査地点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・海上自衛隊横須賀地方総監部 ・横浜地方気象台等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 植物の生育状況 | 現地調査 | 植物調査結果のとりまとめによる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地形・地質の状況 | 現地調査 | <p><調査内容></p> <p>以下に示す調査内容により、地質調査、土質試験等を実施する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">調 査 項 目</th> <th>廃棄物処理施設 宅地の造成</th> <th>発生土処分場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">地質調査</td> <td>ボーリング調査</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>標準貫入試験</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>シンウォールサンプリング</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>トリプルサンプリング</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>孔内水平載荷試験</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>密度検層</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">土質試験</td> <td>物理試験</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>三軸圧縮試験 (UU)</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>圧密試験</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">岩石試験</td> <td>岩のスレーキング試験</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>岩の破碎試験</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">材料試験</td> <td>大型一面せん断試験</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>大型一次元圧縮試験 段階載荷</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>大型一次元圧縮試験 クリープ</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) ○は調査項目を示す。</p> | | 調 査 項 目 | | 廃棄物処理施設 宅地の造成 | 発生土処分場 | 地質調査 | ボーリング調査 | ○ | ○ | 標準貫入試験 | ○ | ○ | シンウォールサンプリング | ○ | - | トリプルサンプリング | - | ○ | 孔内水平載荷試験 | ○ | - | 密度検層 | - | ○ | 土質試験 | 物理試験 | ○ | ○ | 三軸圧縮試験 (UU) | ○ | ○ | 圧密試験 | ○ | - | 岩石試験 | 岩のスレーキング試験 | - | ○ | 岩の破碎試験 | - | ○ | 材料試験 | 大型一面せん断試験 | - | ○ | 大型一次元圧縮試験 段階載荷 | - | ○ | 大型一次元圧縮試験 クリープ | - | ○ |
| 調 査 項 目 | | 廃棄物処理施設 宅地の造成 | 発生土処分場 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地質調査 | ボーリング調査 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 標準貫入試験 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | シンウォールサンプリング | ○ | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | トリプルサンプリング | - | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 孔内水平載荷試験 | ○ | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 密度検層 | - | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土質試験 | 物理試験 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 三軸圧縮試験 (UU) | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 圧密試験 | ○ | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 岩石試験 | 岩のスレーキング試験 | - | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 岩の破碎試験 | - | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 材料試験 | 大型一面せん断試験 | - | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大型一次元圧縮試験 段階載荷 | - | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大型一次元圧縮試験 クリープ | - | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象事業の計画の状況 | 既存資料調査 | 三種の対象事業における工事計画、事業計画等により、切土、盛土の位置、施工方法、法面の形態、保護対策、擁壁等の位置、構造、施工方法等を把握する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

表 4-3-18(1/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（地象：予測）

| 予 測 | | | | |
|------------|------------------|--------|----------|---|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予 測 の 手 法 |
| 廃棄物処理施設の建設 | 搬入道路の新設及び既設道路の改修 | 1 建設工事 | ・傾斜地の安定性 | <予測時期> ・建設工事中及び完了後の適切な時期とする。 <予測範囲> ・搬入道路の新設及び既設道路の改修範囲のそれぞれにおいて、斜面の状況及び斜面崩壊防止工等の内容を勘案し、代表的な地点を選定する。 <予測方法> ・斜面の安定計算の理論式及び類似事例等を参考とする。 |

表 4-3-18(2/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（地象：予測）

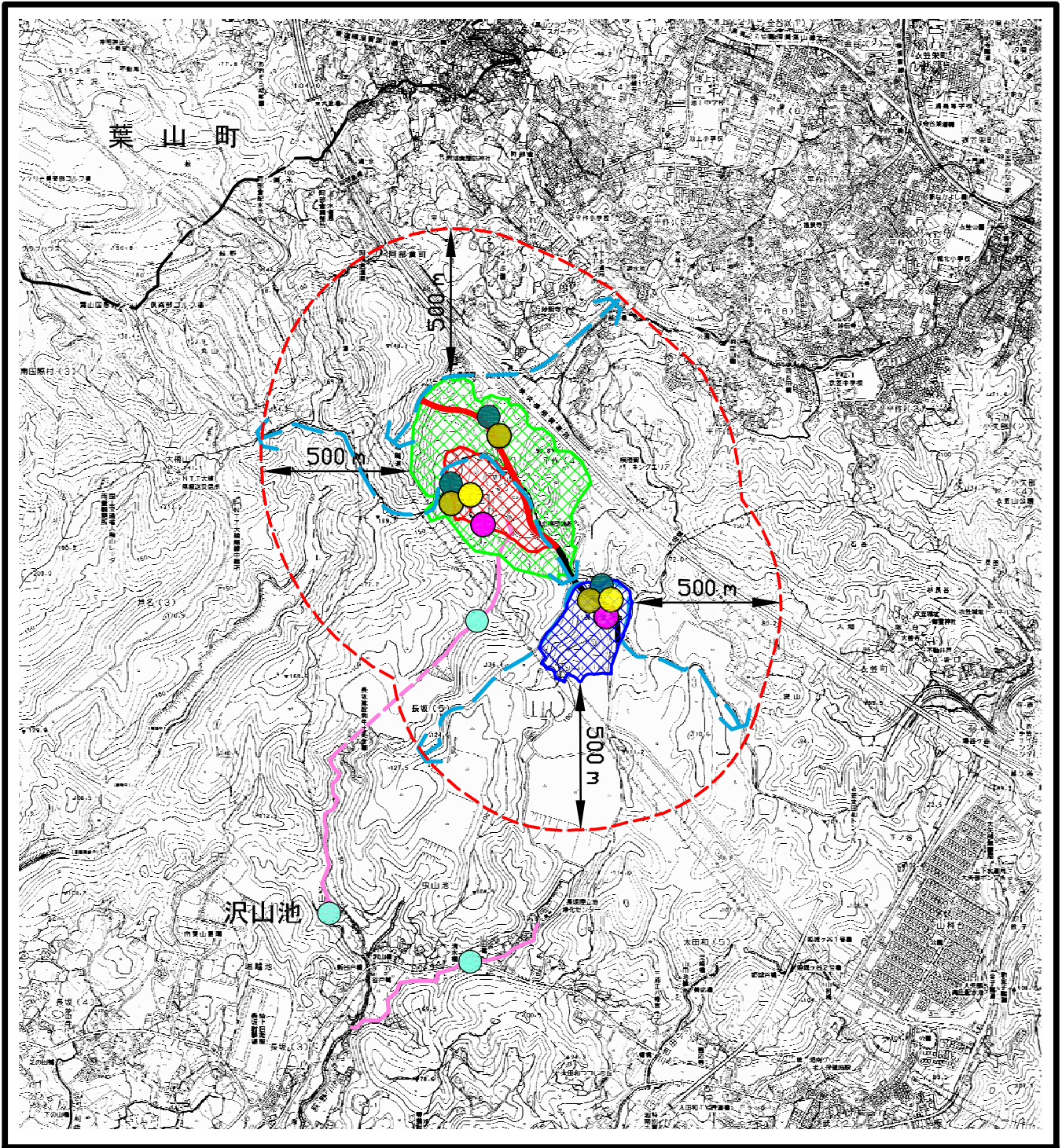
| 予 測 | | | | |
|-----------|-------------------|---------|----------|---|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予 測 の 手 法 |
| 発生土処分場の建設 | 土地又は供用物の存在及び工場の建設 | 11 建設工事 | ・傾斜地の安定性 | <予測時期> ・建設工事中及び完了後の適切な時期とする。 <予測範囲> ・斜面の状況及び斜面崩壊防止工等の内容を勘案し、代表的な地点を選定する。 <予測方法> ・斜面の安定計算の理論式及び類似事例等を参考とする。 |

表 4-3-18(3/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（地象：予測）

| 予 測 | | | | |
|-------|-------------------|---------|----------|---|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予 測 の 手 法 |
| 宅地の造成 | 土地又は供用物の存在及び工場の造成 | 17 造成工事 | ・傾斜地の安定性 | <予測時期> ・建設工事中及び完了後の適切な時期とする。 <予測範囲> ・斜面の状況及び斜面崩壊防止工等の内容を勘案し、代表的な地点を選定する。 <予測方法> ・斜面の安定計算の理論式及び類似事例等を参考とする。 |

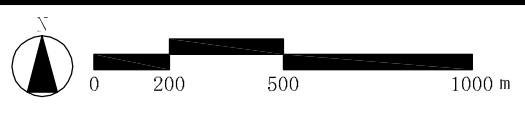
表 4-3-19 調査方法・調査時期等の調査計画等（植物：調査）

| 調 査 | | |
|---------|---------------------------------|--|
| 調 査 事 項 | 調 査 の 方 法 等 | |
| 植 物 | 植物相 ・種子植物及びシダ植物 | 現地調査 <調査範囲> ・実施区域及びその境界から500m程度の範囲とする(図4-3-7参照)。 <調査期間、回数> ・早春、春、夏、秋に各1回とする。 <調査方法> ・調査範囲内を踏査し、目視観察により確認した植物の種名、位置等を記録する。 |
| | 植生 ・現存植生 ・群落構造 ・潜在自然植生 | 現地調査 <調査範囲> ・実施区域及びその境界から500m程度の範囲とする(図4-3-7参照)。 <調査期間、回数> ・早春、春、夏、秋に各1回とする。 <調査方法> ・現存植生：植物社会学的手法（ブラウンプランケの全推定法）に基づき植生調査を行い、調査範囲の群落単位を決定して植物社会学的な位置づけを明らかにするとともに、航空写真等を参考として現存植生図を完成する。 ・群落構造：代表的な植物群落ごとに調査区を設定し、調査区内の植物の種類、種類、高さ、胸高直径等を調査し、種構成、階層構造を模式的に図化した群落構造図を作成するとともに、植物群落の現況や将来的な遷移の方向性を把握する。 ・潜在自然植生：代償植生の中に局所的に残存している自然植生（二次林の林床に生育する自然構成種の芽生え・残存木等）の分布と立地条件を確認する。また、最新の既存文献により、調査範囲の潜在自然植生の概要を把握し、資料調査と現地調査の結果から、調査範囲の潜在自然植生図を作成する。 |
| | 重要な植物種及び植物群落 | 既存資料（含む現地調査結果）調査 重要な植物種及び植物群落の確認地点、生育密度、生育状況、生育環境との関わり等を明らかにする。なお、生育環境との関わりについては文献等を参考にして可能な限り詳細を明らかにする。また、重要な植物種及び植物群落は、文献等を参考に地域生態系の中での重要性・希少性・分布特異性・脆弱性・典型性などを総合的に判断して選定するものとする。 |
| | 緑の量 | 既存資料（含む現地調査結果）調査 緑比率と緑の体積を現存植生及び群落構造の調査結果を基に算出する。 |
| | 生育環境との関わり | 既存資料調査 気象、水象、地象、動物等の生育環境と植物との関わり及び植物相互の関わりを既存資料により調査する。 |
| | | 現地調査 生育環境としての土壌の状況を調査する。 <調査地点> ・植生調査範囲内の代表的な群落の成立箇所 <調査期間、回数> ・1回 <調査方法> ・「自然環境アセスメント技術マニュアル」（（財）自然環境研究センター）の「地形・地質編」の方法に準じた土壌断面調査（深さ1m以上）とする。 |
| | 対象事業の計画の状況 | 既存資料調査 三種の対象事業における工事計画、事業計画等より、土地の形質の変更位置、規模、範囲、施工方法、工作物の位置、規模、構造等を把握する。 |



凡例

- | | | |
|-------------------------|--|------------------------|
| : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む) | : 動植物調査範囲 (植物・哺乳類・鳥類 ・爬虫類・両生類・昆虫類) | : 昆虫類調査地点 (ライトトラップ) |
| : 宅地の造成 (残置森林(最大範囲)) | : 水生生物調査区間 | : 昆虫類調査地点 (ベイトトラップ) |
| : 発生土処分場 | : 哺乳類調査地点 (トラップ) | |
| : 市町界 | : 鳥類調査地点 (ルートセンサス) | |
| : 新設搬入道路 | : 鳥類調査地点 (定点センサス) | |
| : 既設改修道路 | : 水生生物調査地点 | |



注) 宅地の造成(残置森林(最大範囲))には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

図4-3-7 植物・動物調査地点(現地調査)

表 4-3-20(1/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（植物：予測）

| 予 測 | | | | |
|------------|-----------------|--------|---------------------|---|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予測の手法 |
| 廃棄物処理施設の建設 | 搬入道路の新設及び既設道の改修 | 1 建設工事 | ・植物相、植物群落、生育環境との関わり | <予測時期> ・建設工事による影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・調査結果と対象事業の計画の状況から、植物相、植生、重要な植物種及び植物群落の生育地が変化する程度を把握し、理論的解析により予測する。また、生育地の変化、植物の生育基盤の変化等により、生育環境との関わりや植物相互の関わりが変化する程度を類似事例等を参考に把握する。 |

表 4-3-20(2/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（植物：予測）

| 予 測 | | | | |
|-----------|-------|---------|---------------------|---|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予測の手法 |
| 発生土処分場の建設 | 工事の実施 | 11 建設工事 | ・植物相、植物群落、生育環境との関わり | <予測時期> ・建設工事による影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・調査結果と対象事業の計画の状況から、植物相、植生、重要な植物種及び植物群落の生育地が変化する程度を把握し、理論的解析により予測する。また、生育地の変化、植物の生育基盤の変化等により、生育環境との関わりや植物相互の関わりが変化する程度を類似事例等を参考に把握する。 |

表 4-3-20(3/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（植物：予測）

| 予 測 | | | | |
|-------|-------|---------|---------------------|---|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予測の手法 |
| 宅地の造成 | 工事の実施 | 17 造成工事 | ・植物相、植物群落、生育環境との関わり | <予測時期> ・建設工事による影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・調査結果と対象事業の計画の状況から、植物相、植生、重要な植物種及び植物群落の生育地が変化する程度を把握し、理論的解析により予測する。また、生育地の変化、植物の生育基盤の変化等により、生育環境との関わりや植物相互の関わりが変化する程度を類似事例等を参考に把握する。 |

(空白)

表 4-3-21 調査方法・調査時期等の調査計画等（動物：調査）

| 調 査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------------|--|------------------------------------|-------------------------|------|-----|-------------|-------------|------------------|------------------------------------|-------------------------|-----|--------------|-------|-----|--------------|--------------------|-----|---------------------------------|--|
| 調 査 事 項 | 調 査 の 方 法 等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 動物相 ・哺乳類 ・鳥類 ・爬虫類 ・両生類 ・昆虫類 | 現地調査 | <p><調査範囲></p> <p>・実施区域及びその境界から500m程度の範囲とする（図4-3-7（p. 4-73）参照）。</p> <p><調査期間、回数及び方法></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査項目</th> <th>調査時期・回数</th> <th>調査方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>哺乳類</td> <td>春、夏、秋、冬：各1回</td> <td>直接観察法、トラップ法</td> </tr> <tr> <td>鳥類^{注)}</td> <td>12～2月及び5～7月：各2回 8～11月及び3～4月：各1回</td> <td>直接観察法（定点センサス法、ルートセンサス法）</td> </tr> <tr> <td>爬虫類</td> <td>早春、春、夏、秋：各1回</td> <td>直接観察法</td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>早春、春、夏、秋：各1回</td> <td>直接観察法、卵塊・幼生調査、鳴声調査</td> </tr> <tr> <td>昆虫類</td> <td>4～5月及び6月：各2回 7～8月及び9～10月：各1回</td> <td>直接観察法、ビーティング法、スウィーピング法、ライトトラップ法、ベイトトラップ法</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 鳥類調査において、希少猛禽類の生息が確認された場合は、「猛禽類保護の進め方」（環境庁自然保護局野生生物課編）を参考に2営巣期調査を行うものとする。</p> | 調査項目 | 調査時期・回数 | 調査方法 | 哺乳類 | 春、夏、秋、冬：各1回 | 直接観察法、トラップ法 | 鳥類 ^{注)} | 12～2月及び5～7月：各2回 8～11月及び3～4月：各1回 | 直接観察法（定点センサス法、ルートセンサス法） | 爬虫類 | 早春、春、夏、秋：各1回 | 直接観察法 | 両生類 | 早春、春、夏、秋：各1回 | 直接観察法、卵塊・幼生調査、鳴声調査 | 昆虫類 | 4～5月及び6月：各2回 7～8月及び9～10月：各1回 | 直接観察法、ビーティング法、スウィーピング法、ライトトラップ法、ベイトトラップ法 |
| | | 調査項目 | 調査時期・回数 | 調査方法 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 哺乳類 | 春、夏、秋、冬：各1回 | 直接観察法、トラップ法 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 鳥類 ^{注)} | 12～2月及び5～7月：各2回 8～11月及び3～4月：各1回 | 直接観察法（定点センサス法、ルートセンサス法） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 爬虫類 | 早春、春、夏、秋：各1回 | 直接観察法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 両生類 | 早春、春、夏、秋：各1回 | 直接観察法、卵塊・幼生調査、鳴声調査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | 4～5月及び6月：各2回 7～8月及び9～10月：各1回 | 直接観察法、ビーティング法、スウィーピング法、ライトトラップ法、ベイトトラップ法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 重要な種、個体群及び生息地 | 既存資料（含む現地調査結果）調査 | 重要な動物の生息箇所、個体数、密度、分布、繁殖行動、食性、他種との関係等を明らかにする。なお、重要な種は文献等を参考に地域生態系の中での重要性・希少性・分布特異性・脆弱性・典型性などを総合的に判断して選定するものとする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生育環境との関わり | 既存資料調査 | 植物の生育環境との関わりと動物との関わりについて文献等を参考にして可能な限り詳細を明らかにする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象事業の計画の状況 | 既存資料調査 | 三種の対象事業における工事計画、事業計画等より、土地の形質の変更位置、規模、範囲、施工方法、工作物の位置、規模、構造等を把握する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

表 4-3-22(1/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（動物：予測）

| 予 測 | | | | |
|------------|-----------------|--------|----------------|--|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予 測 の 手 法 |
| 廃棄物処理施設の建設 | 搬入道路の新設及び既設道の改修 | 1 建設工事 | ・動物相、生息環境との関わり | <p><予測時期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設工事による影響が最大となる時期とする。 <p><予測範囲></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施区域周辺地域とする。 <p><予測方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果と対象事業の計画の状況から、動物相、重要な種、個体群及び生息地が変化する程度を把握し理論的解析により予測する。また、生息環境の変化等により、生息環境との関わりや動物相互の関わりが変化する程度を類似事例等を参考に把握する。 |

表 4-3-22(2/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（動物：予測）

| 予 測 | | | | |
|-----------|-------|---------|----------------|--|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予 測 の 手 法 |
| 発生土処分場の建設 | 工事の実施 | 11 建設工事 | ・動物相、生息環境との関わり | <p><予測時期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設工事による影響が最大となる時期とする。 <p><予測範囲></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施区域周辺地域とする。 <p><予測方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果と対象事業の計画の状況から、動物相、重要な種、個体群及び生息地が変化する程度を把握し理論的解析により予測する。また、生息環境の変化等により、生息環境との関わりや動物相互の関わりが変化する程度を類似事例等を参考に把握する。 |

表 4-3-22(3/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（動物：予測）

| 予 測 | | | | |
|-------|-------|---------|----------------|--|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予 測 の 手 法 |
| 宅地の造成 | 工事の実施 | 17 造成工事 | ・動物相、生息環境との関わり | <p><予測時期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設工事による影響が最大となる時期とする。 <p><予測範囲></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施区域周辺地域とする。 <p><予測方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果と対象事業の計画の状況から、動物相、重要な種、個体群及び生息地が変化する程度を把握し理論的解析により予測する。また、生息環境の変化等により、生息環境との関わりや動物相互の関わりが変化する程度を類似事例等を参考に把握する。 |

表 4-3-23 調査方法・調査時期等の調査計画等（水生生物：調査）

| 調 査 | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---------------------------|--|-------------|---------|------|----|-------------|-------------|------|------------|-------------|
| 調 査 事 項 | 調 査 の 方 法 等 | | | | | | | | | | |
| 水生生物 | 水生生物相 ・魚類 ・ベントス | <p>現地調査</p> <p><調査範囲></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施区域を流れる排水路から沢山池までの範囲、長坂埋立地浄化センター放流口下流から荻野川合流までの範囲とする(図4-3-7(p. 4-73)参照)。 <p><調査期間、回数及び方法></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査項目</th> <th>調査時期・回数</th> <th>調査方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>魚類</td> <td>春、夏、秋、冬：各1回</td> <td>任意採集法、トラップ法</td> </tr> <tr> <td>ベントス</td> <td>早春、春、夏：各1回</td> <td>任意採集法、定量採集法</td> </tr> </tbody> </table> | 調査項目 | 調査時期・回数 | 調査方法 | 魚類 | 春、夏、秋、冬：各1回 | 任意採集法、トラップ法 | ベントス | 早春、春、夏：各1回 | 任意採集法、定量採集法 |
| | 調査項目 | 調査時期・回数 | 調査方法 | | | | | | | | |
| | 魚類 | 春、夏、秋、冬：各1回 | 任意採集法、トラップ法 | | | | | | | | |
| | ベントス | 早春、春、夏：各1回 | 任意採集法、定量採集法 | | | | | | | | |
| 重要な水生生物種、個体群とその生育及び生息地 | 既存資料（含む現地調査結果）調査 | 重要な水生生物の確認地点、個体数、密度、分布、繁殖行動、食性、他種との関係等を明らかにする。なお、重要な種は文献等を参考に地域生態系の中での重要性・希少性・分布特異性・脆弱性・典型性などを総合的に判断して選定するものとする。 | | | | | | | | | |
| 生育及び生息環境との関わり | 既存資料調査 | 水生生物の生育及び生息に関する水温、流速、水質、底質状態（粒土分布等）、河川形態等の状況について把握する。 | | | | | | | | | |
| 対象事業の計画の状況 | 既存資料調査 | 三種の対象事業における工事計画、事業計画等より、土地の形質の変更位置、規模、範囲、施工方法、工作物の位置、規模、構造等を把握する。 また、発生土処分場の存在、宅地の形成について、水生生物に影響を及ぼす汚濁物質を排出する施設の計画等を把握する。 | | | | | | | | | |

表 4-3-24(1/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（水生生物：予測）

| 予 測 | | | | |
|------------|---------------|--------|--|--|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予 測 事 項 | 予 測 の 手 法 |
| 廃棄物処理施設の建設 | 搬入道路の新設及び既設道路 | 1 建設工事 | <ul style="list-style-type: none"> ・水生生物相、生育及び生息環境との関わり | <p><予測時期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設工事による影響が最大となる時期とする。 <p><予測範囲></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施区域周辺地域とする。 <p><予測方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果と対象事業の計画の状況から、水生生物相、重要な水生生物種、個体群及び生育及び生息地が変化する程度を理論的解析により予測する。また、生育及び生息環境の変化等により、生育及び生息環境との関わりや水生生物相互の関わりが変化する程度を類似の事例等を参考に把握する。 |

表 4-3-24(2/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（水生生物：予測）

| 予 測 | | | | |
|-----------|---------------|--------------|---|--|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予 測 の 手 法 |
| 発生土処分場の建設 | 工事の実施 | 11 建設工事 | <ul style="list-style-type: none"> 水生生物相、生育及び生息環境との関わり | <ul style="list-style-type: none"> <予測時期> <ul style="list-style-type: none"> ・建設工事による影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> <ul style="list-style-type: none"> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果と対象事業の計画の状況から、水生生物相、重要な水生生物種、個体群及び生育及び生息地が変化する程度を理論的解析により予測する。また、生育及び生息環境の変化等により、生育及び生息環境との関わりや水生生物相互の関わりが変化する程度を類似の事例等を参考に把握する。 |
| | 土地又は工作物の存在及び供 | 16 発生土処分場の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 水生生物相、生育及び生息環境との関わり | <ul style="list-style-type: none"> <予測時期> <ul style="list-style-type: none"> ・降雨時を含め発生土処分場の存在による影響を的確に把握できる時期とする。 <予測範囲> <ul style="list-style-type: none"> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果と対象事業の計画の状況から、水生生物相、重要な水生生物種、個体群及び生育及び生息地が変化する程度を理論的解析により予測する。また、生育及び生息環境の変化等により、生育及び生息環境との関わりや水生生物相互の関わりが変化する程度を類似の事例等を参考に把握する。 |

表 4-3-24(3/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（水生生物：予測）

| 予 測 | | | | |
|-------|---------------|----------|---|--|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予 測 の 手 法 |
| 宅地の造成 | 工事の実施 | 17 造成工事 | <ul style="list-style-type: none"> 水生生物相、生育及び生息環境との関わり | <ul style="list-style-type: none"> <予測時期> <ul style="list-style-type: none"> ・建設工事による影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> <ul style="list-style-type: none"> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果と対象事業の計画の状況から、水生生物相、重要な水生生物種、個体群及び生育及び生息地が変化する程度を理論的解析により予測する。また、生育及び生息環境の変化等により、生育及び生息環境との関わりや水生生物相互の関わりが変化する程度を類似の事例等を参考に把握する。 |
| | 土地又は工作物の存在及び供 | 21 宅地の形成 | <ul style="list-style-type: none"> 水生生物相、生育及び生息環境との関わり | <ul style="list-style-type: none"> <予測時期> <ul style="list-style-type: none"> ・建設工事による影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> <ul style="list-style-type: none"> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果と対象事業の計画の状況から、水生生物相、重要な水生生物種、個体群及び生育及び生息地が変化する程度を理論的解析により予測する。また、生育及び生息環境の変化等により、生育及び生息環境との関わりや水生生物相互の関わりが変化する程度を類似の事例等を参考に把握する。 |

表 4-3-25 調査方法・調査時期等の調査計画等（生態系：調査）

| 調 査 | | |
|---------|-------------|--|
| 調 査 事 項 | 調 査 の 方 法 等 | |
| 生態系 | 環境類型の区分 | 既存資料調査 地形・地質、土壌、湧水、植物相、植生、動物相の調査結果、注目種・群集等の調査結果に基づき、調査地域を特徴づける生態系を環境類型ごとに区分する。 |
| | 注目種・群集等の状況 | 既存資料（含む現地調査結果）調査 <調査範囲> 植物相調査、動物相調査、水生生物相調査と同一とする（図4-3-7(p. 4-73)参照）。 <調査期間、回数及び方法> 調査期間及び回数は植物相調査、動物相調査、水生生物相調査と同一とするが、必要に応じて適宜追加することとする。 植物相、動物相及び水生生物相のなかで、効率かつ効果的に生態系を把握できる種、群落及び群集について生活史、食性、繁殖習性、行動習性、生育生息地の特徴等、食物連鎖上の関係及び共生の関係の視点に基づき整理する。 |
| | 生態系の機能の状況 | 既存資料（含む現地調査結果）調査 <調査範囲> 植物相調査、動物相調査、水生生物相調査と同一とする（図4-3-7(p. 4-73)参照）。 <調査期間、回数及び方法> 調査期間及び回数は植物相調査、動物相調査、水生生物相調査と同一とするが、必要に応じて適宜追加することとする。 「環境類型の区分」及び「注目種・群集等の状況」以外の生態系の把握に必要な情報を既存資料又は現地調査で把握する。把握した情報をもとに理論的解析又は類似の事例を参考に整理する。 |
| | 対象事業の計画の状況 | 既存資料調査 三種の対象事業における工事計画、事業計画等より、土地の形質の変更位置、規模、範囲、施工方法、工作物の位置、規模、構造等を把握する。 |

表 4-3-26(1/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（生態系：予測）

| 予 測 | | | | |
|------------|------------------|--------|----------------------------|---|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予 測 の 手 法 |
| 廃棄物処理施設の建設 | 搬入道路の新設及び既設道路の改修 | 1 建設工事 | ・環境類型の変化、生育生息環境の変化と生態系との関係 | <予測時期> ・建設工事による影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・調査結果と対象事業の計画の状況から、環境類型の区分ごとに变化する生物相及び生育生息環境と生態系との関係について理論的解析により予測する。注目種・群集等の状況については、上位性、典型性、特殊性の観点から選定した生物種等及びその生育生息環境の変化と生態系との関係について類似事例等を参考に予測する。 |

表 4-3-26(2/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（生態系：予測）

| 予 測 | | | | |
|-----------|-------|---------|----------------------------|---|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予 測 の 手 法 |
| 発生土処分場の建設 | 工事の実施 | 11 建設工事 | ・環境類型の変化、生育生息環境の変化と生態系との関係 | <予測時期> ・建設工事による影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・調査結果と対象事業の計画の状況から、環境類型の区分ごとに变化する生物相及び生育生息環境と生態系との関係について理論的解析により予測する。注目種・群集等の状況については、上位性、典型性、特殊性の観点から選定した生物種等及びその生育生息環境の変化と生態系との関係について類似事例等を参考に予測する。 |

表 4-3-26(3/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（生態系：予測）

| 予 測 | | | | |
|-------|-------|---------|----------------------------|---|
| 区分 | 時期 | 環境影響要因 | 予測事項 | 予 測 の 手 法 |
| 宅地の造成 | 工事の実施 | 17 造成工事 | ・環境類型の変化、生育生息環境の変化と生態系との関係 | <予測時期> ・建設工事による影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・調査結果と対象事業の計画の状況から、環境類型の区分ごとに变化する生物相及び生育生息環境と生態系との関係について理論的解析により予測する。注目種・群集等の状況については、上位性、典型性、特殊性の観点から選定した生物種等及びその生育生息環境の変化と生態系との関係について類似事例等を参考に予測する。 |